



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 基体に設けられた信号記録層に光ビームを照射し、この信号記録層から反射される戻りの光ビームの変化を検出して上記信号記録層に記録された情報信号を再生する光記録媒体において、

直径が6.5mm以下であり、厚さが0.4mm～0.7mmの範囲にあって、中心からの半径が1.2.5mm以下の位置から情報信号が記録され、情報信号が記録される信号記録領域の面積と非信号記録領域の面積の比が3.4以上であり、少なくとも2ギガバイト以上の記録容量を有することを特徴とする光記録媒体。

【請求項2】 記録トラックのトラックピッチを0.3μm～0.55μmで、ピット長を0.1μm～0.22μmで情報信号の記録が行われることを特徴とする請求項1記載の光記録媒体。

【請求項3】 中心部にセンター孔が形成され、上記センター孔を囲んで一方の面側に突出するリング状のテーブル載置部が突設され、上記センター孔内にマグネットクランプ用のハブが取り付けられてなる請求項1記載の光記録媒体。

【請求項4】 上記テーブル載置部は、突出量を0.4mm～0.7mmとなし、外径を略1.4mmとなし内径を略8mmとなすリング状に形成されたことを特徴とする請求項3記載の光記録媒体。

【請求項5】 基体に設けられた信号記録層に光ビームを照射し、この信号記録層から反射される戻りの光ビームの変化を検出して上記信号記録層に記録された情報信号を再生する光記録媒体において、

直径が3.8mm以上で5.2mm以下であり、厚さが0.4mm～0.7mmの範囲にあって、中心からの半径が1.2.5mm以下の位置から情報信号が記録され、少なくとも1ギガバイト以上の記録容量を有することを特徴とする光記録媒体。

【請求項6】 記録トラックのトラックピッチを0.3μm～0.55μmで、ピット長を0.1μm～0.22μmで情報信号の記録が行われることを特徴とする請求項5記載の光記録媒体。

【請求項7】 中心部にセンター孔が形成され、上記センター孔を囲んで一方の面側に突出するリング状のテーブル載置部が突設され、上記センター孔内にマグネットクランプ用のハブが取り付けられてなる請求項5記載の光記録媒体。

【請求項8】 上記テーブル載置部は、直径が6.5mm以下であり、厚さが0.4mm～0.7mmの範囲にあって、中心からの半径が1.2.5mm以下の位置から情報信号が記録され、情報信号が記録される信号記録領域の面積と非信号記録領域の面積の比が3.4以上であり、少なくとも2ギガバイト以上の記録容量を有する光記録媒体に設けられるテーブル載置部と同一の大きさに形成されていることを特徴とする請求項7記載の光記録

媒体。

【請求項9】 基体に設けられた信号記録層に光ビームを照射し、この信号記録層から反射される戻りの光ビームの変化を検出して上記信号記録層に記録された情報信号を再生する光記録媒体であって、直径が6.5mm以下であり、厚さが0.4mm～0.7mmの範囲にあり、中心からの半径が1.2.5mm以下の位置から情報信号が記録され、情報信号が記録される信号記録領域の面積と非信号記録領域の面積の比が3.4以上であり、少なくとも2ギガバイト以上の記録容量を有する第1の光記録媒体に形成される記録トラックのトラックピッチに対し略1.4倍のトラックピッチで記録トラックが形成され、最短ピット長を上記第1の記録媒体に形成される最小ピットの略1.4倍とし、上記第1の光記録媒体に記録される記録容量を1/2以下とするピットパターンを有するスタンパの上記ピットパターンを転写した射出成形により形成されその厚さを0.4mm～0.6mmとなし、上記転写されたピットパターン上に半透明の記録層を成膜した基板と、

光透過性を有し厚さを0.05mm～0.1mmとなし一方の面にスタンパに設けたピットパターンを熱転写方によって転写し、このピットパターンが転写された面に光ビームを反射させる信号記録層を成膜したシート体とを有し、

上記基板と上記シート体と互いにピットパターンが形成された面側を対向させ、2.0μm～3.5μmの厚さの光透過層を介して接合され、直径が6.5mm以下であり、厚さが0.4mm～0.7mmの範囲にあり、中心からの半径が1.2.5mm以下の位置から情報信号が記録されてなる再生専用型の光記録媒体。

【請求項10】 中心部にセンター孔が形成され、上記センター孔を囲んで一方の面側に突出するリング状のテーブル載置部が突設され、上記センター孔内にマグネットクランプ用のハブが取り付けられてなる請求項9記載の光記録媒体。

【請求項11】 上記テーブル載置部は、突出量を0.4mm～0.7mmとなし、外径を略1.4mmとなし内径を略8mmとなすリング状に形成されたことを特徴とする請求項10記載の光記録媒体。

【請求項12】 基体に設けられた信号記録層に光ビームを照射し、この信号記録層から反射される戻りの光ビームの変化を検出して上記信号記録層に記録された情報信号を再生する光記録媒体であって、直径が3.8mm以上で5.2mm以下であり、厚さが0.4mm～0.7mmの範囲にあり、中心からの半径が1.2.5mm以下の位置から情報信号が記録され、少なくとも1ギガバイト以上の記録容量を有する第2の光記録媒体に形成される記録トラックのトラックピッチに対し略1.4倍のトラックピッチで記録トラックが形成され、最短ピット長を上記第1の記録媒体に形成される最小ピットの略1.4

倍とし、上記第2の光記録媒体に記録される記録容量を1/2以下とするピットパターンを有するスタンバの上記ピットパターンを転写した射出成形により形成されその厚さを0.4mm~0.6mmとなし、上記転写されたピットパターン上に半透明の記録層を成膜した基板と、

光透過性を有し厚さを0.05mm~0.1mmとなし一方の面にスタンバに設けたピットパターンを熱転写方によって転写し、このピットパターンが転写された面に光ビームを反射させる信号記録層を成膜したシート体とを有し、

上記基板と上記シート体と互いにピットパターンが形成された面側を対向させ、20μm~35μmの厚さの光透過層を介して接合され、直径が38mm以上で52mm以下であり、厚さが0.4mm~0.7mmの範囲にあり、中心からの半径が12.5mm以下の位置から情報信号が記録される再生専用型の光記録媒体。

【請求項13】 中心部にセンター孔が形成され、上記センター孔を囲んで一方の面側に突出するリング状のテーブル載置部が突設され、上記センター孔内にマグネットクランプ用のハブが取り付けられてなる請求項12記載の光記録媒体。 20

【請求項14】 上記テーブル載置部は、突出量を0.4mm~0.7mmとなし、外径を略14mmとなし内径を略8mmとなすリング状に形成されたことを特徴とする請求項12記載の光記録媒体。

【請求項15】 基体に設けられた信号記録層に光ビームを照射し、この信号記録層から反射される戻りの光ビームの変化を検出して上記信号記録層に記録された情報信号を再生する光ディスクであって、直径が65mm以下であり、厚さが0.4mm~0.7mmの範囲にあって、中心からの半径が12.5mm以下の位置から情報信号が記録され、情報信号が記録される信号記録領域の面積と非信号記録領域の面積の比が3.4以上であり、少なくとも2ギガバイト以上の記録容量を有する光ディスクと、 30

上記光ディスクを収納する一辺が52mm~70mmで、一辺に直交する他辺が52mm~75mmで厚さが3mm~6mmの矩形状をなすカートリッジとを備え、上記カートリッジは、少なくとも上記光ディスクに光ビームを照射する光ピックアップが対向する面側に、上記光ディスクの一部を径方向に直って外方に臨ませる記録及び/又は再生用の開口部と、上記光ディスクの中心部に設けられるセンター孔を外方に臨ませる中央開口部とが設けられ、上記記録及び/又は再生用の開口部が上記カートリッジの幅方向の中心から一方の側に変位して形成されてなるディスクカートリッジ。 40

【請求項16】 上記カートリッジには、少なくとも上記記録及び/又は再生用の開口部を開閉するシャッタ部材が上記カートリッジの一の側面に沿って移動可能に取 50

り付けられている請求項15記載のディスクカートリッジ。

【請求項17】 基体に設けられた信号記録層に光ビームを照射し、この信号記録層から反射される戻りの光ビームの変化を検出して上記信号記録層に記録された情報信号を再生する光ディスクであって、直径が38mm以上で52mm以下であり、厚さが0.4mm~0.7mmの範囲にあって、中心からの半径が12.5mm以下の位置から情報信号が記録され、少なくとも1ギガバイト以上の記録容量を有する光ディスクと、

上記光ディスクを収納する 上記光ディスクを収納する一辺が41mm~57mmで、一辺に直交する他辺が41mm~62mmで厚さが3mm~6mmの矩形状をなすカートリッジとを備え、

上記カートリッジは、少なくとも上記光ディスクに光ビームを照射する光ピックアップが対向する面側に、上記光ディスクの一部を径方向に直って外方に臨ませる記録及び/又は再生用の開口部と、上記光ディスクの中心部に設けられるセンター孔を外方に臨ませる中央開口部とが設けられ、上記記録及び/又は再生用の開口部が上記カートリッジの幅方向の中心から一方の側に変位して形成されてなるディスクカートリッジ。

【請求項18】 上記カートリッジには、少なくとも上記記録及び/又は再生用の開口部を開閉するシャッタ部材が上記カートリッジの一の側面に沿って移動可能に取り付けられている請求項17記載のディスクカートリッジ。

【請求項19】 基体に設けられた信号記録層に光ビームを照射し、この信号記録層から反射される戻りの光ビームの変化を検出して上記信号記録層に記録された情報信号を再生する光記録媒体であって、直径が65mm以下であり、厚さが0.4mm~0.7mmの範囲にあり、中心からの半径が12.5mm以下の位置から情報信号が記録され、情報信号が記録される信号記録領域の面積と非信号記録領域の面積の比が3.4以上であり、少なくとも2ギガバイト以上の記録容量を有する第1の光記録媒体に形成される記録トラックのトラックピッチに対し略1.4倍のトラックピッチで記録トラックが形成され、最短ピット長を上記第1の記録媒体に形成される最小ピットの略1.4倍とし、上記第1の光記録媒体に記録される記録容量を1/2以下とするピットパターンを有するスタンバの上記ピットパターンを転写した射出成形により形成されその厚さを0.4mm~0.6mmとなし、上記転写されたピットパターン上に半透明の記録層を成膜した基板と、

光透過性を有し厚さを0.05mm~0.1mmとなし一方の面にスタンバに設けたピットパターンを熱転写方によって転写し、このピットパターンが転写された面に光ビームを反射させる信号記録層を成膜したシート体とを有し、上記基板と上記シート体と互いにピットバター

ンが形成された面側を対向させ、 $20\mu\text{m} \sim 35\mu\text{m}$ の厚さの光透過層を介して接合され、直径が $6.5\text{mm}$ 以下であり、厚さが $0.4\text{mm} \sim 0.7\text{mm}$ の範囲にあり、中心からの半径が $1.2.5\text{mm}$ 以下の位置から情報信号が記録される再生専用型の光ディスクと、

上記再生専用型の光ディスクを収納する一辺が $5.2\text{mm} \sim 7.0\text{mm}$ で、一辺に直交する他辺が $5.2\text{mm} \sim 7.5\text{mm}$ で厚さが $3\text{mm} \sim 6\text{mm}$ の矩形状をなすカートリッジとを備え、

上記カートリッジは、少なくとも上記光ディスクに光ビームを照射する光ピックアップが対向する面側に、上記光ディスクの一部を径方向に直って外方に臨ませる再生用の開口部と、上記光ディスクの中心部に設けられるセンター孔を外方に臨ませる中央開口部とが設けられ、上記再生用の開口部が上記カートリッジの幅方向の中心から一方の側に変位して形成されてなるディスクカートリッジ。

**【請求項20】** 上記カートリッジには、少なくとも上記再生用の開口部を開閉するシャッタ部材が上記カートリッジの一の側面に沿って移動可能に取り付けられている請求項19記載のディスクカートリッジ。  
20

**【請求項21】** 基体に設けられた信号記録層に光ビームを照射し、この信号記録層から反射される戻りの光ビームの変化を検出して上記信号記録層に記録された情報信号を再生する光記録媒体であって、直径が $3.8\text{mm}$ 以上で $5.2\text{mm}$ 以下であり、厚さが $0.4\text{mm} \sim 0.7\text{mm}$ の範囲にあり、中心からの半径が $1.2.5\text{mm}$ 以下の位置から情報信号が記録され、少なくとも $1\text{ギガバイト}$ 以上の記録容量を有する第2の光記録媒体に形成される記録トラックのトラックピッチに対し略 $1.4$ 倍のトラックピッチで記録トラックが形成され、最短ピット長を上記第1の記録媒体に形成される最小ピットの略 $1.4$ 倍とし、上記第2の光記録媒体に記録される記録容量を $1/2$ 以下とするピットパターンを有するスタンバの上記ピットパターンを転写した射出成形により形成されその厚さを $0.4\text{mm} \sim 0.6\text{mm}$ となし、上記転写されたピットパターン上に半透明の記録層を成膜した基板と、

光透過性を有し厚さを $0.05\text{mm} \sim 0.1\text{mm}$ となし一方の面にスタンバに設けたピットパターンを熱転写によって転写し、このピットパターンが転写された面に光ビームを反射させる信号記録層を成膜したシート体とを有し、上記基板と上記シート体と互いにピットパターンが形成された面側を対向させ、 $20\mu\text{m} \sim 35\mu\text{m}$ の厚さの光透過層を介して接合され、直径が $3.8\text{mm}$ 以上で $5.2\text{mm}$ 以下であり、厚さが $0.4\text{mm} \sim 0.7\text{mm}$ の範囲にあり、中心からの半径が $1.2.5\text{mm}$ 以下の位置から情報信号が記録される再生専用型の光ディスクと、  
40 上記再生専用型の光ディスクを収納する一辺が $4.1\text{mm}$

～ $5.7\text{mm}$ で、一辺に直交する他辺が $4.1\text{mm} \sim 6.2\text{mm}$ で厚さが $3\text{mm} \sim 6\text{mm}$ の矩形状をなすカートリッジとを備え、

上記カートリッジは、少なくとも上記光ディスクに光ビームを照射する光ピックアップが対向する面側に、上記光ディスクの一部を径方向に直って外方に臨ませる再生用の開口部と、上記光ディスクの中心部に設けられるセンター孔を外方に臨ませる中央開口部とが設けられ、上記再生用の開口部が上記カートリッジの幅方向の中心から一方の側に変位して形成されてなるディスクカートリッジ。

**【請求項22】** 上記カートリッジには、少なくとも上記再生用の開口部を開閉するシャッタ部材が上記カートリッジの一の側面に沿って移動可能に取り付けられている請求項21記載のディスクカートリッジ。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

**【発明の属する技術分野】** 本発明は、基体に設けられた信号記録層に光ビームを照射し、この信号記録層から反射される戻りの光ビームの変化を検出して上記信号記録層に記録された情報信号を再生する光記録媒体及びこの光記録媒体を収納したディスクカートリッジに関する。

##### 【0002】

**【従来の技術】** 従来、オーディオ情報やビデオ情報等の各種情報の記録媒体として、この記録媒体に記録された情報を光ビームを用いて再生し、あるいは記録するようにした光ディスクが広く用いられている。この種の光ディスクは、1枚の板状の基体により構成することができるので、取り扱いが容易であるばかりか、磁気テープ等の記録媒体に比し大きな記録容量を有することから、オーディオ情報やビデオ情報、さらにはコンピュータディスク処理されるデータの記録媒体として広く用いられている。

##### 【0003】

**【発明が解決しようとする課題】** 光ディスクなどの光記録媒体を用いる記録及び／又は再生装置にあっては、例えばコンピュータ等の情報処理装置に組み込むときの設置スペースを考慮して一層の小型化が要求されている。

**【0004】** また、オーディオ情報やビデオ情報の記録及び／又は再生を目的とする記録及び／又は再生装置にあっては、携帯の利便性を考慮して一層の小型化が要求されている。

**【0005】** 記録及び／又は再生装置の小型化を図るために、この装置に用いられる記録媒体も小型化する必要がある。一方、記録及び／又は再生装置の小型化とともに、この装置に用いる記録媒体の高容量化も要求されている。

**【0006】** そこで、本発明の目的は、記録容量の高容量化を図りながら一層の小型化を図ることができる新規な光記録媒体及びこの光記録媒体を収納したディスクカ

ートリッジを提供することにある。

【0007】本発明の他の目的は、記録容量の高容量化を図りながら記録及び／又は再生装置の一層の小型化を図ることができる光記録媒体及びこの光記録媒体を収納したディスクカートリッジを提供することにある。

【0008】本発明の更に他の目的は、小型化が図られながら回転駆動機構に確実に装着し、回転駆動装置と一体に高速で回転することができる光記録媒体及びこの光記録媒体を収納したディスクカートリッジを提供することにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】上述したような目的を達成するために提案される本発明に係る光記録媒体は、基体に設けられた信号記録層に光ビームを照射し、この信号記録層から反射される戻りの光ビームの変化を検出して上記信号記録層に記録された情報信号を再生する光記録媒体であり、直径が6.5mm以下であり、厚さが0.4mm～0.7mmの範囲にあって、中心からの半径が12.5mm以下の位置から情報信号が記録され、情報信号が記録される信号記録領域の面積と非信号記録領域の面積の比が3.4以上であり、少なくとも2ギガバイト以上の記録容量を有する。

【0010】この光記録媒体は、中心部にセンター孔が形成され、このセンター孔を囲んで一方の面側に突出するリング状のテーブル載置部が突設され、センター孔内にマグネットクランプ用のハブが取り付けられている。

【0011】また、本発明に係る光記録媒体は、基体に設けられた信号記録層に光ビームを照射し、この信号記録層から反射される戻りの光ビームの変化を検出して上記信号記録層に記録された情報信号を再生する光記録媒体であり、直径が38mm以上で52mm以下であり、厚さが0.4mm～0.7mmの範囲にあって、中心からの半径が12.5mm以下の位置から情報信号が記録され、少なくとも1ギガバイト以上の記録容量を有する。

【0012】この光記録媒体は、中心部にセンター孔が形成され、このセンター孔を囲んで一方の面側に突出するリング状のテーブル載置部が突設され、センター孔内にマグネットクランプ用のハブが取り付けられている。

【0013】本発明に係る光記録媒体は、テーブル載置部が回転駆動機構のディスクテーブルに載置され、ハブがディスクテーブル側に配されるマグネットにより吸引されて、ディスクテーブルと一緒に回転駆動される。

【0014】更に、本発明に係る記録媒体は、基体に設けられた信号記録層に光ビームを照射し、この信号記録層から反射される戻りの光ビームの変化を検出して上記信号記録層に記録された情報信号を再生するものであって、直径が6.5mm以下であり、厚さが0.4mm～0.7mmの範囲にあり、中心からの半径が12.5mm以下の位置から情報信号が記録され、情報信号が記録

10

20

30

40

50

される信号記録領域の面積と非信号記録領域の面積の比が3.4以上であり、少なくとも2ギガバイト以上の記録容量を有する第1の光記録媒体に形成される記録トラックのトラックピッチに対し略1.4倍のトラックピッチで記録トラックが形成され、最短ピット長を上記第1の記録媒体に形成される最小ピットの略1.4倍とし、上記第1の光記録媒体に記録される記録容量を1/2以下とするピットパターンを有するスタンパの上記ピットパターンを転写した射出成形により形成されその厚さを0.4mm～0.6mmとなし、上記転写されたピットパターン上に半透明の記録層を成膜した基板と、光透過性を有し厚さを0.05mm～0.1mmとなし一方の面にスタンパに設けたピットパターンを熱転写方によつて転写し、このピットパターンが転写された面に光ビームを反射させる信号記録層を成膜したシート体とを有し、上記基板と上記シート体とを互いにピットパターンが形成された面側を対向させ、20μm～35μmの厚さの光透過層を介して接合され、直径が6.5mm以下であり、厚さが0.4mm～0.7mmの範囲にあり、中心からの半径が12.5mm以下の位置から情報信号が記録された再生専用型の光記録媒体である。

【0015】また更に、光記録媒体は、再生専用型の光記録媒体であって、直径が38mm以上で52mm以下であり、厚さが0.4mm～0.7mmの範囲にあり、中心からの半径が12.5mm以下の位置から情報信号が記録されたものである。

【0016】本発明に係るディスクカートリッジは、基体に設けられた信号記録層に光ビームを照射し、この信号記録層から反射される戻りの光ビームの変化を検出して上記信号記録層に記録された情報信号を再生する光ディスクであって、直径が6.5mm以下であり、厚さが0.4mm～0.7mmの範囲にあって、中心からの半径が12.5mm以下の位置から情報信号が記録され、情報信号が記録される信号記録領域の面積と非信号記録領域の面積の比が3.4以上であり、少なくとも2ギガバイト以上の記録容量を有する光ディスクと、この光ディスクを収納する矩形状のカートリッジとを備える。カートリッジは、少なくとも光ディスクに光ビームを照射する光ピックアップが対向する面側に、上記光ディスクの一部を径方向に亘って外方に臨ませる記録及び／又は再生用の開口部と、上記光ディスクの中心部に設けられるセンター孔を外方に臨ませる中央開口部とが設けられ、上記記録及び／又は再生用の開口部が上記カートリッジの幅方向の中心から一方の側に変位して形成されている。

【0017】本発明に係る他のディスクカートリッジは、基体に設けられた信号記録層に光ビームを照射し、この信号記録層から反射される戻りの光ビームの変化を検出して上記信号記録層に記録された情報信号を再生する光ディスクであって、直径が38mm以上で52mm

以下であり、厚さが0.4mm～0.7mmの範囲にあって、中心からの半径が12.5mm以下の位置から情報信号が記録され、少なくとも1ギガバイト以上の記録容量を有する光ディスクを収納するものである。

【0018】更に、本発明に係るディスクカートリッジは、上述した再生専用型の光ディスクを収納したものであって、下面側にのみ再生用の開口部を設けたものである。

#### 【0019】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係る光記録媒体及びこの光記録媒体を収納するディスクカートリッジを図面を参照して説明する。

【0020】まず、本発明に係る光ディスクの第1の例を説明する。

【0021】第1の光ディスク1は、図1及び図2に示すように、直径を65mm以下となし、厚さを0.4mm～0.7mmの範囲の大きさに形成されてなるものであって、第1の光ディスク1は、光透過性を有するポリカーボネート樹脂等の合成樹脂あるいはガラスにより形成された基板2を備え、この基板2の一方の面側に信号記録層を形成している。

【0022】更に具体的に、第1の光ディスク1は、ポリカーボネート樹脂により形成され、図3に示すように、直径R<sub>1</sub>を64mmとなし、厚さD<sub>1</sub>を0.6mmとして形成した基板2を用いて形成されている。この基板2の中央部には、直径R<sub>2</sub>を8mmとなすセンター孔3が設けられている。基板2の一方の面側には、センター孔3を囲むようにリング状にテーブル載置部4が突設されている。テーブル載置部4は、第1の光ディスク1が装着される記録及び／又は再生装置側に設けられる回転駆動機構のディスクテーブルへの載置部となるものであって、外周側の径R<sub>3</sub>を14mmとして形成され、基板2の一方の面からの基板2の厚さD<sub>1</sub>と同一の略突出量D<sub>2</sub>を有するように形成されている。

【0023】基板2の中央部には、センター孔3を閉塞するようにマグネットクランプ用のハブ5が取り付けられている。ハブ5は、鉄系の磁性を有する薄い金属板を用いて形成され、図3に示すように、中央部にセンター孔3に嵌合する有底の円筒状をなす膨出部6が形成され、この膨出部6の基端部側には基板2への取り付け部となるフランジ部7が設けられている。膨出部6の中心部には、回転駆動機構側に設けられるスピンドル軸が係合するスピンドル軸係合孔8が穿設されている。このスピンドル軸係合孔8は、直径R<sub>4</sub>を2.0mmとして形成されている。

【0024】ハブ5は、図3に示すように、膨出部6を中心孔3に嵌合し、フランジ部7を基板2の他方の面側にセンター孔3を囲んで形成された係合凹部9に係合して基板2に取り付けられる。ハブ5は、フランジ部7を接着剤を用いて係合凹部9に接合される。このハブ

10

10

5は、図3に示すように、膨出部6の先端面6aがテーブル載置部4側に位置し、膨出部6の先端面6aがテーブル載置部4の先端側のテーブル載置面4aから突出しないように基板2に取り付けられる。すなわち、ハブ5は、膨出部6の先端面6aからフランジ部7までの高さが基板2のテーブル載置部4が設けられた部分の厚さよりも小さくなるように形成されている。

【0025】上述のようにテーブル載置部4及びハブ5を設けた基板2を用いて形成される第1の光ディスク1は、図4に示すように、記録及び／又は再生装置側に設けられる回転駆動機構11に装着される。回転駆動機構11は、スピンドルモータ12によって回転駆動されるスピンドル軸13の先端側に、このスピンドル軸13と一緒に回転するようにディスクテーブル14を取り付けている。ディスクテーブル14は、外周側にディスク載置部15が設けられ、内周側に形成した凹状部16内にリング状のマグネット17を取り付けて構成されている。マグネット17は、ディスク載置部15の上面であるディスク載置面15aと面一若しくはディスク載置面15aから突出しないように取り付けられている。第1の光ディスク1は、ハブ5に設けたスピンドル軸係合孔8にスピンドル軸13を係合させ、テーブル載置部4をディスク載置部15に載置してディスクテーブル14に装着される。このとき、第1の光ディスク1は、ハブ5がマグネット17により吸引されることにより、ディスクテーブル14と一緒に回転可能な状態にディスクテーブル14に装着される。

【0026】なお、スピンドル軸13は、第1の光ディスク1が回転中心をスピンドル軸13の中心に一致させる芯出しを図ってディスクテーブル14に装着されるよう、スピンドル軸係合孔8と略同径に形成されている。

【0027】ところで、ハブ5は、図3に示すように、膨出部6の先端面6aがテーブル載置部4側に位置し、膨出部6の先端面6aがテーブル載置部4の先端のテーブル載置面4aから突出しないように基板2に取り付けられているので、第1の光ディスク1がディスクテーブル14上に装着されたとき、マグネット17に接触することなく近接する。ハブ5がマグネット17に近接することにより、第1の光ディスク1は、大きな磁気吸引力でディスクテーブル14側に吸引され、確実にディスクテーブル14と一緒に化されて回転駆動可能な状態となる。また、ハブ5は、第1の光ディスク1がディスクテーブル14に装着されたとき、マグネット17に接触することがないので、過剰な吸着力が作用することなく、第1の光ディスク1のディスクテーブル14への装脱が容易となる。

【0028】また、ハブ5は、膨出部6をテーブル載置部4側に位置するように取り付けられているので、スピンドル軸13のディスクテーブル14からの突出量を小

50

さくしても十分にスピンドル軸係合孔8に係合させることができる。例えば、スピンドル軸13は、先端側に図4に示すように先端先細り状のセンタリン部8aを設けた場合であっても、第1の光ディスク1から突出しない高さに形成することで、第1の光ディスク1の芯出しを図ることができる。スピンドル軸13の高さを抑えることにより、回転駆動機構11の高さを小さくでき、この回転駆動機構11を用いる記録及び／又は再生装置の薄型化を図ることができる。

【0029】ところで、従来マグネットクランプ方式の回転駆動機構に用いられるマグネットは、その強さがB<sub>Hmax</sub>で略30MGエルステッド程度のものが用いられている。ポリカーボネート樹脂を用い、直径R<sub>1</sub>を6.4mmとなし、厚さD<sub>1</sub>を0.6mmとして形成された基板2を用いた第1の光ディスク1をディスクテーブル14に装着した状態で、ディスクテーブル14に衝撃が加えられた場合であっても、ディスクテーブル14から容易に外れないようにチャッキングした状態を維持するためには、120g程度の吸引力が要求される。120g程度の吸引力を発生させることにより、第1の光ディスク1を4000rpm以上の回転速度で回転した場合であっても、確実に第1の光ディスク1とディスクテーブル14を一体化して回転させることができる。

【0030】このような吸引力を回転駆動機構に従来用いられているマグネットにより得るためにには、マグネットの吸引面として直径が8mm程度の大きさを有するハブ5が必要となる、そして、直径R<sub>1</sub>を6.4mm程度に形成された第1の光ディスク1を水平状態を維持してディスクテーブル14上に載置するには、ハブ5の外周側に2.6mm程度の幅を有するリング状のテーブル載置面4aが必要となる。基板2の一方の面側に膨出するよう形成されたテーブル載置部4は、成形加工上テーブル載置面4aのコーナ部まで高精度の平面度を維持することが困難である。テーブル載置部4の先端面側の両側0.2mm程度の範囲に亘る部分は、テーブル載置面4aとして利用することができない。これらの点を考慮すると、中心部にマグネット17により吸引される直径を8mm程度の大きさを有するハブ5を配置し、その外周に2.6mm程度の幅を有するテーブル載置面4aを設けるようにすると、テーブル載置部4は少なくとも直径を14mm程度の大きさに形成する必要がある。

【0031】上述のように中央部にテーブル載置部4が膨出形成され、ハブ5が取り付けられる基板2のディスクテーブル載置部4が設けられる側に対向する他方の面側には、信号記録層21が設けられている。この信号記録層21は、例えば図5に示すように基板2側から再生層22、再生補助層23、非磁性層24、垂直磁化膜で形成された記録磁性層25を順次積層するように成膜して形成されている。

【0032】ここで、再生層22は、室温で膜面と平行

な方向に磁化軸を有し、この第1の光ディスク1に記録された情報信号を再生するときに用いられる光ビームが照射されて昇温される再生温度付近の温度で膜面に垂直な方向に磁化する材料によって形成され、例えばGdFeCo系合金薄膜により形成されている。再生補助層23は、再生解像度を向上させて再生特性を向上させるために設けられるものであって、再生用の光ビームが照射されて昇温される再生温度付近にキュリー温度を有し、キュリー温度までは膜面と平行な方向に磁化軸を有し、キュリー温度以上で磁化方向を消失する材料によって形成され、例えばGdFe系合金薄膜により形成されている。このとき、再生層22は、再生補助層23と交換結合することにより、キュリー温度以下では磁化方向が膜面と平行な面内磁化の状態にあり、キュリー温度以上で再生補助層23が磁化方向が消失することにより、記録磁性層25と静磁結合し、記録磁性層25の磁化方向に倣って垂直磁化される。

【0033】非磁性層24は、記録磁性層25に情報信号を記録する記録動作時に再生層22が記録磁性層25へ与える影響を少なくするように設けられてなるものであって、例えばAlN膜やSiN膜によって形成される。

【0034】記録磁性層25は、膜面と垂直な方向に磁化容易軸を有する非晶質の強磁性層であって、室温で大きな保持力を有し、且つ200°C付近にキュリー点を有する例えばTbFeCo系合金薄膜やTbFeCo系合金薄膜にCr等の第4元素を微量添加したものにより形成される。

【0035】上述のように構成された信号記録層21上には、反射金属層26が積層されている。反射金属層26は、この第1の光ディスク1に入射される光ビームを70%以上反射させる高反射率の非磁性金属層であつて、熱的に良導体であることが望ましくAlやAu、Ag等によって形成されている。反射金属層26上には、この反射金属層26の保護を図るため、光硬化型樹脂等からなる保護層27が設けられている。

【0036】上述のように構成された第1の光ディスク1の信号記録層21には、従来用いられている光変調方式より高密度に情報信号の記録を可能とする記録方式を用いて情報信号の記録が行われる。ここで用いられる記録方式としては、光ビームを記録データクロック毎にパルス発光させ、記録磁界を記録データにしたがって変調するレーザパルス発光磁界方式が用いられる。この方式は、対物レンズにより収束されて信号記録層21に形成されるビームスポット形状と同じピットをオーバーラップしながら記録磁性層25に書き込むことにより、光変調方式を採用するときに発生する光ビームの波長λと光ビームを収束して信号記録層に照射する対物レンズの開口数NAとの関係から求められる光スポット分布(1/NA)により決まる光学限界を超えて情報信号の記録が

可能となる。

【0037】レーザバルス発光磁界方式を用いて情報信号の記録する場合に、波長 $\lambda$ が380～420nmの光ビーム、若しくは波長 $\lambda$ が630～670nmの光ビームを用い、この光ビームを信号記録層に収束する対物レンズの開口数NAを0.5～0.7とし、情報信号が記録される記録トラックのトラックピッチを0.3μm～0.55μmで、ピット長を0.1μm～0.22μmで情報信号の記録が行われる。

【0038】ところで、対物レンズの開口数NAを0.6とし、対物レンズと第1の光ディスク1との間隔であるワーキングディスタンスを1.1mmとすると、半導体レーザから出射されて対物レンズに入射される平行光となされた光ビームの直径は3mmとなる。直径を3mmの平行光が入射される対物レンズの直径は4mm必要であり、この対物レンズを支持するレンズボビンの直径は5mm以上必要となる。レンズボビンに支持された対物レンズから出射されて第1の光ディスク1の信号記録領域を走査する光ビームのフォーカシング及びトラッキングを制御するため、対物レンズをこの対物レンズ光軸と平行な方向のフォーカシング方向及び光軸に直交する方向のトラッキング方向に駆動変位可能とする2軸アクチュエータに取り付けるようにすると、レンズボビンの外側に1.5mm程度の部品配置用の領域が必要となる。

【0039】そして、第1の光ディスク1に中央部には、直径を14mm程度の大きさとなすテーブル載置部4が設けられ、記録及び／又は再生装置側には、このテーブル載置部4が載置されるテーブル載置部4とほぼ同じ大きさのディスクテーブル14が配置される。このようく形成された第1の光ディスク1を上述したような直径を4mmとなす対物レンズを用いた光ピックアップ装置から出射される光ビームにより走査する場合、光ビームの中心は、第1の光ディスク1の最内周側の半径11mmの位置まで近づくことができる。すなわち、第1の光ディスク1は、内周側の直径R<sub>o</sub>が2mm以内の範囲には光ビームの照射を行うことができない。したがって、第1の光ディスク1においては、少なくとも内周側の直径R<sub>o</sub>を2.2mmとなす位置から外側の位置に情報信号の記録領域を設けることになる。

【0040】なお、情報信号の記録領域は、光磁気信号として記録された情報信号を光ビームを用いて光学的に正確な読み取りを保証するため、基板2の複屈折は、光ビームの往復で30nm以下が必要とされる。そこで、基板2に入射される光ビームの複屈折が往復で30nm以下を保証することができる内周側の直径R<sub>o</sub>を2.2mmとなす位置から外側の位置の領域を情報信号の記録領域としている。

【0041】そこで、第1の光ディスク1は、図3に示すように、記録情報量を最大に確保しながら確実な情報

信号の記録を行い、且つこの記録された情報信号を確実に再生するため、第1の光ディスク1の中心から半径が12.5mm以下の位置、すなわち内周側の直径R<sub>o</sub>が2.5mm以下の位置から外周側の領域を信号記録領域としている。

【0042】具体的には、第1の光ディスク1は、内周側の直径R<sub>o</sub>を24.5mmの位置から外周側の直径R<sub>o</sub>を61mmとする領域をオーディオ情報やビデオ情報などの情報記録領域としている。信号記録領域の内周側には、第1の光ディスク1に情報信号を記録し又は再生するときに用いられる制御信号などが記録される領域が設けられ、外周側には信号記録領域の終了を示す制御信号などが記録される領域が設けられる。

【0043】上述のように構成された第1の光ディスク1の信号記録領域と非信号記録領域の比は3.4以上となれる。

【0044】ところで、第1の光ディスク1に、情報信号を記録する場合に、波長 $\lambda$ を400nmの光ビームを用いて上述したようなレーザバルス発光磁界方式を用いて情報信号の記録すると、4ギガバイト(GByte)以上の記録容量を確保でき、波長 $\lambda$ を660nmの光ビームを用いた場合には、2ギガバイト(GByte)以上の記録容量を確保できる。

【0045】2ギガバイト(GByte)以上の記録容量を確保することにより、従来提案されている信号圧縮技術を用いることにより、例えばJPEG規格の静止画で200枚以上を記録可能とし、例えばMPEG2規格(転送レート8Mbps)の動画を例えばMPEG2規格のオーディオ符号化技術を用いて音声とともに30分以上記録することが可能となる。

【0046】上述したように、レーザバルス発光磁界方式を用いて第1の光ディスク1に記録された情報信号の再生を行うには、図6に示すように、基板2側から光ビームL<sub>1</sub>を照射する。第1の光ディスク1に光ビームL<sub>1</sub>が照射されると、GdFeCo系合金薄膜により形成された再生層22中の光ビームL<sub>2</sub>が集中する部分が一定温度以上に昇温し、GdFe系合金薄膜により形成された再生補助層23の光ビームL<sub>3</sub>が集中する部分がキュリー温度以上に昇温され磁化方向を失う。その結果、再生層22の昇温された部分が記録磁性層25と静磁結合し、図6(A)に示すように、記録磁性層25の垂直磁化方向に倣って垂直磁化される。再生層22の垂直磁化された部分の周囲は、膜面と平行な方向に磁化軸を有する面内磁化の状態を保持し、図6(B)に示すように、カーボンを発生させることができないマスク29として機能し、垂直磁化された部分が記録磁性層25に対する光ビームL<sub>4</sub>のアーチャー30として機能する。再生層22の光ビームL<sub>4</sub>が集中される部分のみが記録磁性層25の磁化方向に倣って垂直磁化されるので、微少なトラックピッチの記録トラック31に微少なピット長のビッ

ト32をもって記録された情報信号を良好な再生分解能をもって再生することができる。

【0047】上述の例で、第1の光ディスク1は、直径R<sub>1</sub>を6.4mmとなし、厚さD<sub>1</sub>を0.6mmとして形成されているが、直径R<sub>1</sub>を6.5mmの大きさまで大きくしてもよく、目的とする記録容量を確保し得る範囲で6.5mm以下の大きさであればよい。また、第1の光ディスク1の厚さD<sub>1</sub>は、情報信号の記録及び／又は再生に用いる光ビームの波長に応じて0.4mm～0.7mmの範囲で適宜選択される。

【0048】また、本発明に係る第2の光ディスク41は、上述した第1の光ディスク1と互換性をもって共通の記録及び／又は再生装置に用いることを可能とするものである。

【0049】第2の光ディスク41は、最外周径を異にするのみで他の部分は第1の光ディスク1と共通に形成されたものであるので、共通する部分には共通の符号を付して詳細な説明は省略する。

【0050】すなわち、第2の光ディスク41は、直径が3.8mm以上で5.2mm以下となし、厚さを0.4mm～0.7mmの範囲の大きさに形成されている。より具体的には、第2の光ディスク41は、図7に示すように、直径R<sub>11</sub>を5.0mmとして形成されている。この第2の光ディスク41も、光透過性を有するポリカーボネート樹脂等の合成樹脂あるいはガラスにより形成された基板42を備え、この基板42の一方の面側に信号記録層を形成している。

【0051】第2の光ディスク1を構成する基板42は、ポリカーボネート樹脂により形成され、図7に示すように、直径R<sub>11</sub>を5.0mmとなし、厚さD<sub>11</sub>を0.6mmとして形成されている。基板42の中央部には、第1の光ディスク1と同様に、直径R<sub>2</sub>を8mmとなすセンター孔3が設けられている。基板42の一方の面側には、センター孔3を囲むようにリング状にテーブル載置部4が突設されている。基板42の中央部には、第1の光ディスク1と同様にセンター孔3を閉塞するようにマグネットクランプ用のハブ5が取り付けられている。このハブ5の膨出部6の中心部には、回転駆動機構側に設けられるスピンドル軸が係合するスピンドル軸係合孔8が穿設されている。このスピンドル軸係合孔8は、直径R<sub>3</sub>を2.0mmとして形成されている。このハブ5も、第1の光ディスク1と同様に、膨出部6をセンター孔3に嵌合し、フランジ部7を基板2の他方の面側にセンター孔3を囲んで形成された係合凹部9に係合して基板2に取り付けられる。

【0052】基板42のディスクテーブル載置部4が設けられる側に対向する他方の面側には、第1の光ディスク1と同様の信号記録層21が設けられている。

【0053】第2の光ディスク41の信号記録層21にも、第1の光ディスク1の信号記録層21への情報信号

の記録方式と同様に、光ビームを記録データクロック毎にパルス発光させ、記録磁界を記録データにしたがって変調するレーザパルス発光磁界方式によりオーディオ情報やビデオ情報などの情報信号が記録される。

【0054】第2の光ディスク41も、第1の光ディスク1と同様のテーブル載置部4が設けられ、記録及び／又は再生装置側には、このテーブル載置部4が載置されるテーブル載置部4とほぼ同じ大きさのディスクテーブル14が配置され、第1の光ディスク1の記録及び／又は再生に用いる光ピックアップ装置を用いることになるので、第1の光ディスク1と同様に、少なくとも内周側の直径R<sub>5</sub>を2.2mmとなす位置から外側の位置に情報信号の記録領域を設けることになる。第2の光ディスク41も、図7に示すように、記録情報量を最大に確保するため、第2の光ディスク41の中心から半径が1.2.5mm以下の位置、すなわち内周側の直径R<sub>6</sub>が2.5mm以下の位置から外周側の領域を信号記録領域としている。

【0055】具体的には、第2の光ディスク41は、内周側の直径R<sub>6</sub>を2.4.5mmの位置から外周側の直径R<sub>11</sub>を4.6.5mmとする領域をオーディオ情報やビデオ情報などの情報記録領域としている。信号記録領域の内周側には、第2の光ディスク41に情報信号を記録し又は再生するときに用いられる制御信号などが記録される領域が設けられ、外周側には信号記録領域の終了を示す制御信号などが記録される領域が設けられる。

【0056】ところで、第2の光ディスク41に、情報信号を記録する場合に、波長λを400nmの光ビームを用いて上述したようなレーザパルス発光磁界方式を用いて情報信号の記録すると、2ギガバイト(GByte)以上の記録容量を確保でき、波長λを660nmの光ビームを用いた場合には、1ギガバイト(GByte)以上の記録容量を確保できる。

【0057】上述したように、レーザパルス発光磁界方式を用いて第2の光ディスク41に記録された情報信号の再生は、前述した第1の光ディスク1に記録された情報信号を再生する方式と同様の再生方式によって再生される。

【0058】上述の例で、第2の光ディスク41は、直径R<sub>11</sub>を5.0mmとなし、厚さD<sub>11</sub>を0.6mmとして形成されているが、直径R<sub>11</sub>は目的とする記録容量を確保し得るように3.8mm以上で5.2mm以下の範囲で適宜選択され、その厚さD<sub>11</sub>は、情報信号の記録及び／又は再生に用いる光ビームの波長に応じて0.4mm～0.7mmの範囲で適宜選択される。

【0059】上述した第1及び第2の光ディスク1、41は、1枚の基板2、42に一層の信号記録層のみを設けているが、再生専用型の光ディスクにあっては、信号記録層は、2層以上の多層構造としてもよい。

【0060】信号記録層を2層とした再生専用型の第3

の光ディスクを説明する。第3の光ディスク111は、第1の光ディスク1と同一の大きさに形成されてなるものであって、直径を65mm以下となし、厚さを0.4mm～0.7mmの範囲の大きさに形成されてなる。

【0061】なお、第3の光ディスク111は、第1の光ディスク1に対応する大きさに形成されてなるものであって、第1の光ディスク1と同様に、直径を65mmの大きさまで大きくしてもよく、目的とする記録容量を確保し得る範囲で65mm以下の大きさであればよい。また、第3の光ディスク111の厚さも、このディスク111に記録された情報信号の再生に用いる光ビームの波長に応じて0.4mm～0.7mmの範囲で適宜選択される。

【0062】第3の光ディスク111は、図8に示すように、光透過性を有するポリカーボネート樹脂等の合成樹脂により形成された基板112を備える。この基板112は、直径を65mm以下となし、厚さD<sub>2</sub>を0.4mm～0.7mmの範囲の大きさに形成され、一方の面側に記録情報に対応する微少な凹凸パターンであるピットパターン113が予め形成されている。この基板112は、ピットパターン113とは反対のピットパターンを設けたスタンバをキャビティ内に配した金型装置に溶融したポリカーボネート樹脂を射出することによって形成される。基板111のピットパターン113が形成された一方の面には、図8に示すように、ピットパターン113に沿って第1の信号記録層114が設けられている。第1の信号記録層114は、基板112側から照射される光ビームを一定量透過し、一定量を反射する半透過膜として形成され、Si<sub>x</sub>N<sub>y</sub>、SiO<sub>x</sub>等のシリコン系の膜を100nm～500nm程度の厚さD<sub>2</sub>として成膜して形成される。このとき、第1の信号記録層114は、Si<sub>x</sub>N<sub>y</sub>膜やSiO<sub>x</sub>膜を多層に成膜して形成される。第1の信号記録層114を構成するSi<sub>x</sub>N<sub>y</sub>膜やSiO<sub>x</sub>膜は、真空蒸着法あるいはスパッタリング法により成膜される。

【0063】ここで、基板112に形成されるピットパターン113は、前記第1及び第2の光ディスク1,41に形成される記録トラックのトラックピッチに対し略1.4倍程度のトラックピッチで形成された記録トラックに形成され、ピットパターン113を構成するピットの最小ピット長も略1.4倍の大きさとされている。すなわち、再生専用型の第3の光ディスク111は、記録トラックのトラックピッチを0.4μm～0.77μmの範囲とし、ピット長を0.14μm～0.31μmの範囲として形成されるので、合成樹脂の射出成形法を用いて製造することが可能である。

【0064】このような大きさにトラックピッチ及び最小ピット長を設定したスタンバは、第1及び第2の光ディスク1,41にそれぞれ対応する大きさに形成されたとき、第1及び第2の光ディスク1,41に記録される

ピットパターンの1/2のピットパターンが形成され、記録容量もそれぞれ1/2となる。したがって、このスタンバを用いて形成される基板112に記録される情報量は、第1及び第2の光ディスク1,41にそれぞれ対応する大きさに形成されたとき、第1及び第2の光ディスク1,41に記録される情報量の1/2となる。

【0065】なお、この基板112にも、前述した第1及び第2の光ディスク1,41と同様に、中心部にセンター孔3が形成され、信号記録層114が設けられる面に対向する面側にセンター孔3を囲むようにリング状にテーブル載置部4が突設されている。さらに、基板112の中央部には、第1及び第2の光ディスク1,41と同様にセンター孔3を閉塞するようにマグネットランプ用のハブ5が取り付けられている。

【0066】第3の光ディスク111を構成する基板112の第1の信号記録層114が形成された面上には、基板112より十分に薄く形成され、一方の面側に記録情報に対応する微少な凹凸パターンであるピットパターン115が予め形成されたシート体116が紫外線硬化型樹脂等の光透過性を有する合成樹脂からなる光透過層117を介して接合されている。

【0067】このシート体116は、光透過性を有するポリカーボネート樹脂等の合成樹脂を用いて、0.05mm～0.1mmの厚さD<sub>3</sub>に形成されている。このシート体116の一方の面側に形成されるピットパターン115は、スタンバに設けたピットパターン115とは反対のピットパターンを熱転写することによって形成され、このピットパターン115に沿って、図8に示すように、第2の信号記録層118が設けられている。第2の信号記録層118は、第1の信号記録層114及び光透過層117を透過して照射される光ビームを基板112側に位置する光ピックアップに高効率で反射させるため、アルミニウム(A1)、金(Au)、銀(Ag)等の高反射率を確保できる材料からなる膜を成膜することによって形成されている。

【0068】ピットパターン115及び第2の信号記録層118が形成されたシート体116は、図9に示すような工程を経て製造される。シート体116を構成する例えばポリカーボネート樹脂の原反121を、スタンバ122の一方の面に形成したピットパターン115とは反対のピットパターン123に加熱手段を内蔵した圧着ローラ124を用いて加熱しながら圧着し、このピットパターン123を熱転写する。このピットパターン123が転写された原反121を巻き取りロールにより巻き取り、ピットパターン123が形成された部分をスパッタリング装置内に移動し、第2の信号記録層118を成膜する。次に、原反121を巻き取りロール121aにより巻き取り、第2の信号記録層118を成膜された部分を打ち抜き装置に対応する位置に移動させ、基板112に接合される大きさに打ち抜くことによってシート体

116が形成される。

【0069】ここで、スタンバ122に形成されるピットパターン115は、前記第1及び第2の光ディスク1, 41に形成される記録トラックのトラックピッチに対し略1.4倍程度のトラックピッチで形成された記録トラックに形成され、ピットパターン115を構成するピットの最小ピット長も略1.4倍の大きさとされている。このような大きさにトラックピッチ及び最小ピット長を設定したスタンバ122は、第1及び第2の光ディスク1, 41にそれぞれ対応する大きさに形成されたとき、第1及び第2の光ディスク1, 41に記録されるピットパターンの1/2のピットパターンが形成され、記録容量もそれぞれ1/2となる。したがって、このスタンバを用いて形成されるシート体116に記録される情報量は、第1及び第2の光ディスク1, 41にそれぞれ対応する大きさに形成されたとき、第1及び第2の光ディスク1, 41に記録される情報量の1/2となる。

【0070】上述のように形成されたシート体116は、第2の信号記録層118が形成された面を基板112の第1の信号記録層114側に対向させ、光透過層117を構成する例えば紫外線硬化型樹脂を用いて接合する。

【0071】シート体116を基板112に接合するには、互いの中心を一致させ、20μm～35μmの間隔を隔て第1及び第2の信号記録層114, 118を対向させる。このとき、例えば、図10に示すように、シート体116の中心部に設けたセンター孔116aと基板112に設けたセンター孔3に治具125を挿入し、互いの中心を一致させるとともに、第1及び第2の信号記録層114, 118が20μm～35μmの間隔D<sub>2</sub>を隔てるよう調整する。次に、基板112とシート体116との間に光透過層117を構成する例えば紫外線硬化型樹脂を注入する。このとき、基板112とシート体116を回転することにより、基板112とシート体116との間に注入される紫外線硬化型樹脂を均等の厚さになるように延伸させ、その後基板112側から紫外線を照射することにより、紫外線硬化型樹脂を硬化させて基板112とシート体116を接合する。

【0072】次に、基板112に設けたセンター3を覆うようにハブ5を取り付けることによ第3の光ディスク11が形成される。

【0073】ここで、基板112とシート体116とを20μm～35μmの間隔を隔て対向させて光透過層117を構成する例えば紫外線硬化型樹脂を用いて接合してなるので、光透過層117の厚さD<sub>2</sub>は20μm～35μmとなる。

【0074】ここで、波長λが380～420nmの光ビーム、若しくは波長λが630～670nmの光ビームを、開口数NAを0.5～0.7とする対物レンズ131により第1又は第2の信号記録層114, 118に

収束させたときの焦点深度は、±1μmとなるので、光透過層117の厚さD<sub>2</sub>が20μm～35μmの範囲とされることにより、第1又は第2の信号記録層114, 118に記録された情報信号を互いの影響を受けることなく共通の光ビームL<sub>1</sub>及び共通の対物レンズ131を用いてそれぞれ独立して再生することができる。また、光透過層117の厚さD<sub>2</sub>が20μm～35μmの範囲とされることにより、対物レンズ131の球面収差の影響を受けることなく第1及び第2の信号記録層114, 118に記録された情報信号を正確に再生することができる。

【0075】第1又は第2の信号記録層114, 118に記録された情報信号を再生する場合には、図8に示すように、第1又第2の信号記録層114, 118に光ビームL<sub>1</sub>が合焦するよう対物レンズ131の位置を制御する。対物レンズ131の制御は、例えば、第1及び/又は第2の信号記録層114, 118の制御信号記録領域に記録された各信号記録層114, 118を示す制御信号を用いて制御される。

【0076】上述した再生専用型の第3の光ディスク111は、第1及び第2の信号記録層114, 118に第1の光ディスク1に記録される情報量の1/2を記録可能としているので、全体で第1の光ディスク1に記録される情報量と同等の情報量が記録可能となる。

【0077】また、上述した第3の光ディスク111は、第1及び第2の信号記録層114, 118に記録された情報信号をそれぞれ基板112側から光ビームを照射して再生するようにしているが、第2の信号記録層118を、光ビームを一定量透過し一定量を反射する半透過膜として形成することにより、第1及び第2の信号記録層114, 118に記録された情報信号をそれぞれシート体116側から光ビームを照射して再生することも可能となる。

【0078】再生専用型の第3の光ディスク111にあっては、図11に示すように、第1のシート体116の上に、光透過性を有する紫外線硬化型樹脂等からなる第2の光透過層127を介して更に第2のシート体126を接合し、3層の信号記録層を有するように構成してもよい。この場合、少なくとも第1のシート体116に設けられる信号記録層118は、光ビームを一定量透過し一定量を反射する半透過膜として形成される。

【0079】上述した多層構造の再生専用型の光ディスクは、前述した第2の光ディスク41に対応する大きさに形成したものであってもよい。この場合にも、各層に第2の光ディスク41に記録される情報量の1/2を記録可能としているので、信号記録層を2層とすることにより、全体で全体で第1の光ディスク1に記録される情報量と同等の情報量が記録可能となる。

【0080】上述のように構成された第1及び第2の光ディスク1, 41は、極めて高密度に情報信号が記録さ

れるので、僅かの塵埃の付着や傷付きにより正確な情報信号の記録又は再生を行うことができなくなってしまう。

【0081】そこで、第1及び第2の光ディスク1、41は、カートリッジに収納され、カートリッジに収納されたままの状態で記録及び／又は再生装置に装着され、あるいは保管し得るようにディスクカートリッジとして構成される。

【0082】そこで、第1の光ディスク1を収納した第1のディスクカートリッジ51を図面を参照して説明する。

【0083】第1の光ディスク1を収納する第1のディスクカートリッジ51は、図12及び図13に示すように、上ハーフ52と下ハーフ53を突き合わせ結合して形成したカートリッジ54内に第1の光ディスク1を収納している。カートリッジ54は、直径を65mm以下となす第1の光ディスク1を回転自在に収納し得るよう、第1の辺の幅W<sub>1</sub>を52mm～70mmとなし、第1の辺に直交する第2の辺の幅W<sub>2</sub>を52mm～75mmの範囲の大きさを有する矩形状に形成されている。このカートリッジ54の大きさは、収納される第1の光ディスク1の大きさに合わせ、第1の辺の幅W<sub>1</sub>を52mm～70mmの範囲で、第2の辺の幅W<sub>2</sub>を52mm～75mmの範囲で適宜選択される。また、カートリッジ54の厚さD<sub>1</sub>も収納される第1の光ディスク1の厚さに応じて3mm～6mmの範囲で選択される。

【0084】すなわち、カートリッジ54は、第1の光ディスク1の大きさに合わせ、この第1の光ディスク1を収納するに足る最小の大きさ及び厚さを有する矩形状に形成される。

【0085】ここに示す第1のディスクカートリッジ51は、直径R<sub>1</sub>を64mmとなし、厚さD<sub>1</sub>を0.6mmの第1の光ディスク1を収納するので、カートリッジ54は、第1の辺の幅W<sub>1</sub>を68mmとなし、第2の辺の幅W<sub>2</sub>を72mmとなし、厚さD<sub>1</sub>を5mmとなす矩形状に形成されている。

【0086】カートリッジ54の上ハーフ52によって構成される上面側には、このカートリッジ54に収納した第1の光ディスク1の一部を径方向に亘って外方に臨ませる記録用開口部55が設けられている。記録用開口部55は、第1の光ディスク1に情報信号を記録する場合に、記録再生装置側に設けられる外部磁界印加用の磁気ヘッドを第1の光ディスク1に近接して対向させるためのものであって、カートリッジ54の中央部近傍からカートリッジ54の幅狭の前面側近傍に亘って矩形状に形成されている。この記録用開口部55は、幅方向の中心をカートリッジ54の前面側の幅方向の中心P<sub>1</sub>に位置させて形成されている。

【0087】また、カートリッジ54の下ハーフ53によって構成される下面側には、第1の光ディスク1の一

部を径方向に亘って外方に臨ませるとともに記録及び／又は再生装置側の光ピックアップ装置を第1の光ディスク1に対向させる記録再生用記録用開口部56と、第1の光ディスク51の中央部設けたテーブル載置部4を外方に臨ませる中央開口部57が設けられている。中央開口部57は、カートリッジ54の下面側の中央部に位置して形成され、記録再生用開口部56は、中央開口部57に連続してカートリッジ54の前面側近傍に亘って矩形状に形成されている。記録再生用開口部56は、図13に示すように、幅方向の中心P<sub>2</sub>をカートリッジ54の前面側の幅方向の中心P<sub>1</sub>に対しカートリッジ54の一方の側面側に変位させて形成されている。このように記録再生用開口部56をカートリッジ54の中心から変位した位置に設けることにより、対物レンズの光軸を第1の光ディスク1の中心線上に位置させながら光ピックアップ装置の主体部を第1の光ディスク1の中心線上からはずらせて配置することができ、このディスクカートリッジ51を用いる記録及び／又は再生装置の一層の小型化を図ることができる。

【0088】カートリッジ54には、記録用開口部55とともに記録再生用開口部56及び中央開口部57を同時に開閉するシャッタ部材58が取り付けられている。シャッタ部材58は、薄い金属板をプレス加工に打ち抜き折り曲げて形成されてなるものであって、記録用開口部55を開閉する第1のシャッタ部材59と、記録再生用開口部56及び中央開口部57を開閉する第2のシャッタ部60と、これら第1及び第2のシャッタ部59、60の基端部側を連結する連設部61とから構成され、全体で断面コ字状に形成されている。連設部61の両側には、カートリッジ54の前面側に嵌合する第1及び第2のスライドガイド部62、63が突設されている。第1のシャッタ部59は、図12に示すように、記録用開口部55を開塞するに足る大きさの矩形状に形成されている。第2のシャッタ部60は、図13に示すように、カートリッジ54の中心から変位して形成された記録再生用開口部56とともにカートリッジ54の中央部に形成された中央開口部57を開塞するように、第1のシャッタ部59に対し側方に変位して連設部61から延長され、中央開口部57を開塞する部分を折り曲げるよう変位させて形成されている。

【0089】シャッタ部材58は、第1のシャッタ部59を記録用開口部55上の延在させ、第2のシャッタ部60を記録再生用開口部56及び中央開口部57上に延在させてカートリッジ54の前面側から嵌合される。このとき、シャッタ部材58は、第1及び第2のスライドガイド部62、63をカートリッジ54の前面側に係合させ、これらスライドガイド部62、63に設けた図示しないスライドガイド片をカートリッジ54に設けたスライドガイド溝に係合させて取り付けられる。このようにカートリッジ54に取り付けられたシャッタ部材58

は、カートリッジ54からの抜け止めが図られ、カートリッジ54の前面に沿って記録用開口部55とともに記録再生用開口部56及び中央開口部57を同時に開閉する図12及び図13中矢印A方向及び矢印B方向に移動可能となされている。

【0090】カートリッジ54内には図示しないが、記録用開口部55とともに記録再生用開口部56及び中央開口部57を閉塞した位置に移動されたシャッタ部材58と係合し、シャッタ部材58を閉塞位置に保持するロック部材が設けられている。ロック部材は、シャッタ部材58が閉塞位置に移動されたとき、第1のスライドガイド部62に設けたロック片が係合することによってシャッタ部材58を閉塞位置に保持する。

【0091】また、シャッタ部材58は、第1のディスクカートリッジ51が記録及び／又は再生装置からライズクトされる際、シャッタ保持部材により保持されることによりカートリッジ54に対し相対移動され、記録再生用開口部56及び中央開口部57を閉塞した位置に移動される。したがって、この第1のディスクカートリッジ51においては、バネ等の付勢手段を用いることなく、シャッタ部材58の閉塞位置への移動が行われる。

【0092】なお、記録再生用開口部56とともに中央開口部57を閉塞するように長尺に形成された第2のシャッタ部60の先端部は、図13に示すように、カートリッジ54の下面側に取り付けられ移動ガイド片60aによって支持され、カートリッジ54の下面からの浮き上がりが防止され、確実に中央開口部57を閉塞するようになされている。

【0093】また、カートリッジ54の前面側には、第1のディスクカートリッジ51を記録及び／又は再生装置に装着するとき、記録及び／又は再生装置側に設けたシャッタ開放部材が係合するシャッタ開放部材係合溝64が設けられている。シャッタ開放部材係合溝64は、第1のディスクカートリッジ51の記録及び／又は再生装置への挿入端となる一方の側面側を開放端として形成されている。

【0094】このように構成された第1のディスクカートリッジ51は、シャッタ開放部材係合溝64の開放端が臨む一方の側面を挿入端として、図12及び図13中矢印E方向を挿入方向として記録及び／又は再生装置に挿入すると、シャッタ開放部材係合溝64に記録及び／又は再生装置側に設けたシャッタ開放部材が進入し、ロック部材を押圧変位させてシャッタ部材58に設けたロック片との係合が解除される。第1のディスクカートリッジ51は、ロック片のロック部材への係合が解除された後更に記録及び／又は再生装置に挿入されると、シャッタ部材がシャッタ開放部材に移動が規制された状態でカートリッジ54が移動され、記録用開口部55とともに記録再生用開口部56及び中央開口部57が開放されて記録及び／又は再生装置内のカートリッジ装着部に装

着される。

【0095】カートリッジ54の下面側には、図13に示すように、第1のディスクカートリッジ51が記録及び／又は再生装置に装着されたとき、記録及び／又は再生装置側に設けられる位置決めピンが係合する第1及び第2の位置決めピン係合孔65、66が設けられている。これら位置決めピン65、66は、カートリッジ54に収納された第1の光ディスク1とは対向しないカートリッジ54の前面側の各コーナ部に位置して設けられている。

【0096】上述のように構成された第1のディスクカートリッジ51は、小径の第1の光ディスク1を収納するに足る大きさに形成され、記録再生用開口部56をカートリッジ54の一方の側面側に変位させて形成しているので、ディスクカートリッジ51の小型化に合わせ、このディスクカートリッジ51を用いる記録及び／又は再生装置の小型化を図ることができる。

【0097】また、第2の光ディスク41を収納する第2のディスクカートリッジ71も、第1のディスクカートリッジ51と同様に、図14及び図15に示すように、上ハーフ72と下ハーフ73を突き合わせ結合して形成したカートリッジ74内に第2の光ディスク41を収納している。カートリッジ74は、直径を38mm以上で52mm以下となす第2の光ディスク41を回転自在に収納し得るように、第1の辺の幅W<sub>1</sub>を41mm～57mmとなし、第1の辺に直交する第2の辺の幅W<sub>2</sub>を41mm～62mmの範囲の大きさを有する矩形状に形成されている。このカートリッジ74の大きさは、収納される第2の光ディスク41の大きさに合わせ、第1の辺の幅W<sub>1</sub>を41mm～57mmの範囲で、第2の辺の幅W<sub>2</sub>を41mm～62mmの範囲で適宜選択される。また、カートリッジ74の厚さD<sub>1</sub>も収納される第2の光ディスク41の厚さに応じて3mm～6mmの範囲で選択される。

【0098】すなわち、カートリッジ74は、第2の光ディスク41の大きさに合わせ、この第2の光ディスク41を収納するに足る最小の大きさ及び厚さを有する矩形状に形成される。

【0099】ここに示す第2のディスクカートリッジ71は、直径R<sub>11</sub>を50mmとなし、厚さD<sub>11</sub>を0.6mmの第2の光ディスク41を収納するので、カートリッジ74は、図14及び図15に示すように、第1の辺の幅W<sub>1</sub>を54mmとなし、第1の辺に直交する第2の辺の幅W<sub>2</sub>を57mmとなし、厚さD<sub>1</sub>を5mmとなす矩形状に形成されている。

【0100】カートリッジ74の上ハーフ72によって構成される上面側には、第1のディスクカートリッジ51と同様に、このカートリッジ74に収納した第2の光ディスク41の一部を径方向に亘って外方に臨ませる記録用開口部75が設けられ、カートリッジ74の下ハ

フ73によって構成される下面側には、第2の光ディスク41の一部を径方向に亘って外方に臨ませるとともに記録及び／又は再生装置側の光ピックアップ装置を第2の光ディスク41に対向させる記録再生用記録用開口部76と、第2の光ディスク41の中央部設けたテーブル載置部4を外方に臨ませる中央開口部77が設けられている。この記録再生用開口部76も、第1のディスクカートリッジ51のものと同様に、図15に示すように、幅方向の中心P<sub>1</sub>をカートリッジ74の前面側の幅方向の中心P<sub>2</sub>に対しカートリッジ74の一方の側面側に変位させて形成されている。

【0101】このカートリッジ74にも、記録用開口部75とともに記録再生用開口部76及び中央開口部77を同時に開閉するシャッタ部材78が取り付けられている。このシャッタ部材78は、大きさを異にするが、第1のディスクカートリッジ51に取り付けられるものと同様の構成を有するので、同一部分には同一の符号を付して詳細な説明は省略する。

【0102】第2のディスクカートリッジ71を構成するカートリッジ74の前面側にも、第2のディスクカートリッジ71を記録及び／又は再生装置に装着するとき、記録及び／又は再生装置側に設けたシャッタ開放部材が係合するシャッタ開放部材係合構84が設けられている。シャッタ開放部材係合構84は、第2のディスクカートリッジ71の記録及び／又は再生装置への挿入端となる一方の側面側を開放端として形成されている。

【0103】このように構成された第2のディスクカートリッジ71は、シャッタ開放部材係合構84の開放端が臨む一方の側面を挿入端として記録及び／又は再生装置に挿入すると、シャッタ開放部材係合構84に記録及び／又は再生装置側に設けたシャッタ開放部材が進入し、ロック部材を押圧変位させてシャッタ部材78に設けたロック片との係合が解除される。第2のディスクカートリッジ71は、ロック片のロック部材への係合が解除された後更に記録及び／又は再生装置に挿入されると、シャッタ部材がシャッタ開放部材に移動が規制された状態でカートリッジ74が移動され、記録用開口部75とともに記録再生用開口部76及び中央開口部77が開放されて記録及び／又は再生装置内のカートリッジ装着部に装着される。

【0104】カートリッジ74の下面側には、図15に示すように、第2のディスクカートリッジ71が記録及び／又は再生装置に装着されたとき、記録及び／又は再生装置側に設けられる位置決めピンが係合する第1及び第2の位置決めピン係合孔85、86が設けられている。これら位置決めピン85、86も、カートリッジ74に収納された第2の光ディスク41とは対向しないカートリッジ74の前面側の各コーナ部に位置して設けられている。

【0105】ところで、第2の光ディスク41を収納し 50

た第2のディスクカートリッジ71は、上述したように第2の光ディスク41に合わせ第1のディスクカートリッジ51に比し小型化されている。一方、第1及び第2の光ディスク1、41は、回転駆動機構への装着部を共通にし、信号記録層への情報信号の記録方式及び再生方式を共通にしているので、第1及び第2のディスクカートリッジ51、71を少なくとも第1のディスクカートリッジ51を用いる記録及び／又は再生装置で共通に用いられるようにすることが望ましい。

【0106】大きさを異にする第1及び第2のディスクカートリッジ51、71を共通の記録及び／又は再生装置で選択的に用いることを可能とするには、記録及び／又は再生装置側に、第1及び第2のディスクカートリッジ51、71を選択的に位置決めして装着することを可能となすカートリッジ装着部やカートリッジホルダを設ける必要がある。

【0107】光ディスクを記録媒体に用いる記録及び／又は再生装置は、光ディスクの内外周に亘って移動する光ピックアップ装置や磁気ヘッドが設けられているため、これら光ピックアップ装置や磁気ヘッドの移動領域中にディスクカートリッジの位置決めを図る機構を設けることが困難である。

【0108】そこで、第1のディスクカートリッジ51を用いることを可能となす記録及び／又は再生装置に大きな変更を加えることなく小型の第2のディスクカートリッジ71を装着可能となすためには、記録及び／又は再生装置に装着する際、第1のディスクカートリッジ51と同様の装着が行えるようにすることにより、第1のディスクカートリッジ51と互換性を持って第2のディスクカートリッジ71を用いることが可能となる。

【0109】そこで、第1のディスクカートリッジ51を用いることを可能となす記録及び／又は再生装置に第2のディスクカートリッジ71を共通に装着するようになすため、第2のディスクカートリッジ71を第1のディスクカートリッジ51と共に大きさとするアダプタが用いられる。

【0110】この大きさ変更用のアダプタ91は、図16に示すように、外形形状を第1のディスクカートリッジ51のカートリッジ54と共通の大きさを有する矩形状に形成されている。このアダプタ91の中央部には、第2のディスクカートリッジ71を装着するためのカートリッジ装着部92が設けられている。このカートリッジ装着部92は、第2のディスクカートリッジ71を収納するに足る大きさの凹部として形成され、底面側には、図16及び図17に示すように、第2のディスクカートリッジ71に設けた第1及び第2の位置決めピン係合孔85、86にそれぞれ係合する第1及び第2の位置決めピン93、94が設けられている。第1及び第2の位置決めピン93、94が設けられた側に対向する側には、第2のディスクカートリッジ71の下面側を支持

してアダプタ91に対する装着高さ位置を位置決めする高さ位置決めピン95、96が設けられている。

【0111】カートリッジ装着部92の底部には、このアダプタ91に装着された第2のディスクカートリッジ71の下面側に設けた記録再生用開口部76及び中央開口部77を外方に臨ませる開口部97が設けられている。

【0112】また、アダプタ91の前面側には、カートリッジ装着部92に装着される第2のディスクカートリッジ71に取り付けたシャックタ部材78に連結されるシャックタ連結部材98が取り付けられている。シャックタ連結部材98は、シャックタ部材78の連設片61に穿設した係合孔61aに係合する係合突起99が設けられ、アダプタ91の前面部に沿ってシャックタ部材78の移動方向と同方向の図16中矢印C方向及び矢印D方向に移動可能に取り付けられている。シャックタ連結部材98には、カートリッジ装着部92に装着される第2のディスクカートリッジ71に設けたシャックタ開放部材係合溝84に係合する係合片100が設けられている。

【0113】さらに、アダプタ91の前面側には、第1のディスクカートリッジ51の前面側に設けられるシャックタ開放部材係合溝64と同様のシャックタ開放部材係合溝101が設けられている。

【0114】さらにまた、アダプタ91の底面側には、第1のディスクカートリッジ51に設けられる第1及び第2の位置決めピン係合孔65、66と共に位置に第1及び第2の位置決めピン係合孔102、103が設けられている。

【0115】このように形成されたアダプタ91に対し、第2のディスクカートリッジ71は、図18に示すように、シャックタ部材78に設けた係合孔61aを係合突起99に係合させるとともにシャックタ開放部材係合溝84に係合片100を係合させ、第1及び第2の位置決めピン係合孔85、86をそれぞれ第1及び第2の位置決めピン93、94に係合させて装着される。このようにアダプタ91に装着することにより、第2のディスクカートリッジ71は、第1のディスクカートリッジ51と同一の形態を有するものとなり、第1のディスクカートリッジ51と同様に取り扱うことが可能となる。

【0116】すなわち、第2のディスクカートリッジ71をカートリッジ装着部92に装着したアダプタ91は、シャックタ連結部材98が取り付けられた前面側に直交する一方の側面を挿入端として記録及び/又は再生装置に挿入される。アダプタ91が記録及び/又は再生装置に挿入されると、シャックタ開放部材係合溝101に記録及び/又は再生装置側に設けたシャックタ開放部材が進入し、シャックタ連結部材98を図18中矢印C方向に移動させる。シャックタ連結部材98が図18中矢印C方向に移動すると、このシャックタ連結部材98に設けた係合片100が第2のディスクカートリッジ71のシャックタ

開放部材係合溝84内を同方向に移動し、第2のディスクカートリッジ71内に設けたロック部材を押圧変位させてシャックタ部材78に設けたロック片との係合が解除される。ロック片のロック部材への係合が解除された後更にアダプタ91が記録及び/又は再生装置に挿入されると、シャックタ部材78が係合片100に移動が規制された状態でアダプタ91とともにカートリッジ71が移動され、記録用開口部75とともに記録再生用開口部76及び中央開口部77が開放され、その後アダプタ91は、第2のディスクカートリッジ71とともに記録及び/又は再生装置内のカートリッジ装着部に装着される。このとき、アダプタ91は、第1及び第2の位置決めピン係合孔102、103が記録及び/又は再生装置側に設けられた位置決めピンに係合することにより、カートリッジ装着部に正確な位置決めが図られて装着される。

【0117】なお、大きさを異にする第1及び第2のディスクカートリッジ51、71を選択的に装着可能と/orため、記録及び/又は再生装置側にそれぞれのディスクカートリッジ51、71を装着可能となすカートリッジ装着部を設けるようにもよい。この場合、カートリッジ装着部には、第1及び第2のディスクカートリッジ51、71に設けた第1及び第2の位置決めピン係合孔65、66及び85、86がそれぞれ係合する位置決めピンが設けられる。そこで、大型の第1のディスクカートリッジ51に、小型の第2のディスクカートリッジ71に設けられる第1及び第2の位置決めピン係合孔85、86に係合する位置決めピンを逃げる逃げ孔を設けることにより、第1及び第2のディスクカートリッジ51、71を選択的に装着可能となす記録及び/又は再生装置への装着が可能となる。

【0118】上述した第1及び第2のディスクカートリッジ51、71は、情報信号の記録を可能とする記録再生型の光ディスク1、41を収納しているので、カートリッジ54、74の上面側に、情報信号を記録する場合に用いられる磁気ヘッドを臨ませるための記録用開口部55、75を設けているが、再生専用の光ディスク111を収納するディスクカートリッジにあっては、上面側に記録用開口部を設けることなく閉塞したままの状態でよく、カートリッジの下面側に光ピックアップ装置を臨ませる再生用開口部及びテーブル載置部を外方に臨ませる中央開口部を設けるのみでよい。したがって、このディスクカートリッジに用いられるシャックタ部材も、カートリッジの下面側に設けられた再生用開口部及び中央開口部を開閉するシャックタ部を備えたものでよい。

【0119】上述したように構成された第1の光ディスク1を収納した第1のディスクカートリッジ51や第2の光ディスク41を収納した第2のディスクカートリッジ71は、次に示すように構成された記録再生装置に装着されて情報信号の記録再生が行われる。

【0120】なお、第2のディスクカートリッジ71

は、アダプタ91に装着され、このアダプタ91とともに装着される。再生専用型の光ディスク111を収納したディスクカートリッジも第1及び第2のディスクカートリッジ51, 71と同様に装着され、この光ディスク111に記録された情報信号の再生が行われる。

【0121】本発明に係る第1又は第2のディスクカートリッジ51, 71、再生専用型の光ディスク111を収納したディスクカートリッジが用いられる記録再生装置200は、図19に示すように、上述した第1のディスクカートリッジ51又はアダプタ91に装着された第2のディスクカートリッジ71、あるいは再生専用型の光ディスク111を収納したディスクカートリッジが装着され、光ディスクに対しオーディオ信号、ビデオ信号等の情報信号を記録し、また、光ディスクに記録された情報信号の再生を行うものであり、情報信号の記録時に光磁気ディスクに対し外部磁界を印加する磁気ヘッド装置を有するものである。

【0122】この記録再生装置200は、図19に示すように、装置本体を構成する筐体内に配設される金属材料により形成された平板な略矩形形状をなすベース201と、ディスクカートリッジを保持するカートリッジホルダ202とを備え、ベース201に対しカートリッジホルダ202が回動可能に支持されてなる。ベース201には、光ディスク1, 41, 111を回転駆動する回転駆動機構11と光ピックアップ装置203とが組み込まれ、ベース201上には、カートリッジホルダ202に保持された図示しないディスクカートリッジが装着されるカートリッジ装着部205が構成されている。カートリッジホルダ202には、光ピックアップ装置204と同期して光ディスク1の径方向に移動する磁気ヘッド装置206が配設されている。

【0123】なお、回転駆動機構11は、前述した図4に示すように構成されてなるものである。

【0124】光ピックアップ装置204は、図19に示すように、光ビームを出射する半導体レーザと、半導体レーザから出射された光ビームを光ディスク1に収束して照射する対物レンズ131と、光ディスク1から反射される戻りの光ビームを検出して情報信号や制御信号を検出する光検出器等を主たる構成要素として構成されている。この光ピックアップ装置204は、ベース201の下面側に互いに平行に取り付けられた一対のガイド軸207に両側を支持され、ディスクテーブル14上に装着された光ディスク1の径方向に移動可能に支持される。このとき、対物レンズ131は、ベース201に形成された開口部208を介してベース201の上面側に臨み、ディスクテーブル14上の光ディスク1に向かう。そして、光ピックアップ装置204は、ベース201の下面側に取り付けられた図示しない送りモータによって回転される図示しない送りねじによって、ガイド軸207にガイドされてディスクテーブル14上の光ディ

スク1の径方向に送り操作される。すなわち、光ピックアップ装置204は、情報信号の記録又は再生をする際、光ディスク1の最内周側から外周側に向かって送り操作される。

【0125】以上のように光ディスク1の径方向に送り操作される光学ピックアップ装置204には、図19に示すように、この光ピックアップ装置204と同期してディスクテーブル14上の光ディスク1の径方向に送り操作される光ピックアップ装置204とともに情報信号の記録手段を構成する磁気ヘッド装置206が連結されている。この磁気ヘッド装置206は、光ディスク1に記録すべき情報信号に応じて変調された外部磁界を印可する磁気ヘッド210と、この磁気ヘッド210を先端側に支持した弾性変位可能な板バネを備えた磁気ヘッド支持板211とを備える。磁気ヘッド装置206は、磁気ヘッド210がディスクテーブル14上の光ディスク1を挟んで光ピックアップ装置204と相対向する位置に位置するように、連結部材213を介して光ピックアップ装置204に連結されている。

【0126】連結部材213は、図19示すように、連結片214と、連結片215の一端部側を連結片215に対し直交する方向に折り曲げて形成した光ピックアップ装置204への取付片216とからなり、全体として略L字状に形成されている。この連結部材213は、連結片215の先端側がベース201の上に突出するようにして、取付片216を固定ネジ等を用いて光学プロック部に固定して光ピックアップ装置204に取り付けられる。連結片215の他端側には、図示しない支軸を介して磁気ヘッド支持板211の基端部が回動自在に支持されている。磁気ヘッド支持板211は、この支軸を中心にして、先端部に支持した磁気ヘッド210がディスクテーブル14上の光ディスク1に対し近接離間する方向に回動する。

【0127】このように連結部材213を介して光ピックアップ装置204に連結された磁気ヘッド装置206は、光ピックアップ装置204が送りモータにより光ディスク1の径方向に送り操作されるとき、この光ピックアップ装置204と一緒に光ディスク1の径方向に送り操作される。

【0128】そして、ベース201には、図19に示すように、ベース201と磁気ヘッド装置206との間に位置して、ディスクカートリッジが挿入保持されるカートリッジホルダ202が回動自在に取り付けられている。このカートリッジホルダ202は、ディスクカートリッジを保持できるように両側にカートリッジ保持部221, 222とを有する。このカートリッジホルダ202は、前面側に形成されるディスクカートリッジの挿脱を行うための挿脱口223を介してディスクカートリッジが挿入されると、各カートリッジ保持部221, 222でディスクカートリッジの両側面部を支持すること

で、このディスクカートリッジを保持する。

【0129】以上のような光ディスクを回転駆動する回転駆動機構11を備えた記録再生装置200は、例えば第1の光ディスク1を収納した第1のディスクカートリッジ51が挿入されると次のように動作する。まず、第1の光ディスク1に対し情報信号の記録を行い又は第1の光ディスク1に記録された情報信号の再生を行うには、カートリッジホルダ202を回動操作してカートリッジ装着部205から離間した上昇位置に置く。このとき、カートリッジホルダ202の挿脱口223が装置本体の外方に臨まされた状態に置かれる。そして、カートリッジホルダ202にディスクカートリッジを保持させたところで、カートリッジホルダ202をカートリッジ装着部205側に回動し、ディスクカートリッジ51をカートリッジ装着部205に位置決め装着する。

【0130】このとき、第1のディスクカートリッジ51に収納された第1の光ディスク1が、回転駆動機構11のディスクテーブル14上に装着され、ディスクテーブル14と一緒に回転するようにクランプされる。ここで、カートリッジ装着部205に装着されたディスクカートリッジが第1の光ディスク1を収納したものであることが検出され、例えば記録鉗が操作され記録操作モードが選択されると、スピンドルモータ12が正転方向に駆動し、光ディスク1は、ディスクテーブル14と一緒に回転される。そして、光ディスク1は、例えば記録鉗が操作され記録モードが選択されると、光ピックアップ装置204が駆動され、光源から出射される光ビームが光ディスク1の信号記録層21を内外周に亘って走査するとともに、磁気ヘッド210から記録すべき情報信号に応じて変調された外部磁界を光ディスク1に印可することによって所望の情報記録が行われる。

【0131】また、再生鉗が操作され再生モードが選択されると、光ディスク1は、光ピックアップ装置204の半導体レーザから出射された光ビームが光ディスク1の信号記録層21に照射され、光ディスク1の信号記録層21から反射される光ビームを光ピックアップ装置204の光検出器によって検出することによって、情報信号の読み出しが行われる。情報信号の再生には、外部磁界、すなわち磁気ヘッド装置206を必要としない。

【0132】ところで、上述した記録再生装置200に用いられる光ピックアップ装置204は、前述したような高密度記録を可能とする光ビームを出射するものであり、波長λが380～420nmの光ビーム、若しくは波長λが630～670nmの光ビームを出射する半導体レーザを光源として用いている。また、対物レンズ131も、高解像度を実現するように、開口数NAを0.5～0.7とするものが用いられる。また、磁気ヘッド210も前述したような高密度記録を可能とする高周波に対応するものが用いられる。

【0133】上述した第1の光ディスク1を収納した第50

1のディスクカートリッジ51以外の第2の光ディスク41を収納した第2のディスクカートリッジ71や、再生専用型の光ディスク111を収納したディスクカートリッジが装着された場合にも、上述したと同様の操作を持つて情報信号の記録又は再生が行われる。

【0134】

【発明の効果】上述したように、本発明に係る光記録媒体及びこの光記録媒体を収納したディスクカートリッジは、光記録媒体の小型化を図りながら、高密度記録を可能としてなるので、小型化しながら十分なオーディオ情報やビデオ情報等の情報を長時間にわたって記録又は再生することを可能となす記録及び／又は再生装置を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る第1の光ディスクを示す斜視図である。

【図2】上記光ディスクをテーブル載置部側からみた斜視図である。

【図3】上記光ディスクの断面図である。

【図4】本発明に係る光ディスクを記録及び／又は再生装置の回転駆動機構に装着した状態を示す断面図である。

【図5】本発明に係る光ディスクに設けられる信号記録層を示す断面図である。

【図6】本発明に係る光ディスクに記録された情報信号を再生する状態を模式的に示す図である。

【図7】本発明に係る第2の光ディスクを示す断面図である。

【図8】本発明に係る再生専用型の第3の光ディスクの一部を拡大して示す断面図である。

【図9】再生専用型の光ディスクを構成するシート体の製造構成を示す図である。

【図10】再生専用型の光ディスクを構成する基板とシート体を接合する状態を示す断面図である。

【図11】本発明に係る再生専用型の光ディスクの他の例を示す断面図である。

【図12】本発明に係る第1の光ディスクを収納した第1のディスクカートリッジを示す斜視図である。

【図13】上記第1のディスクカートリッジを下面側からみた斜視図である。

【図14】本発明に係る第2の光ディスクを収納した第2のディスクカートリッジを示す斜視図である。

【図15】上記第2のディスクカートリッジを下面側からみた斜視図である。

【図16】第2のディスクカートリッジを第1のディスクカートリッジと共に大きさにするアダプタを示す平面図である。

【図17】上記アダプタの断面図である。

【図18】上記アダプタに第2のディスクカートリッジを装着した状態を示す平面図である。

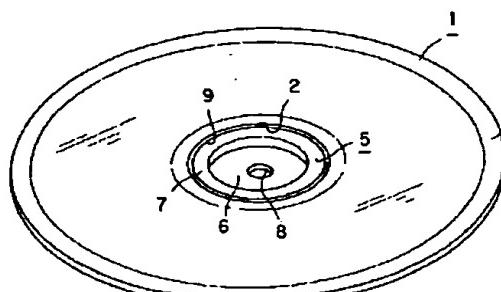
【図19】本発明に係る光ディスクが用いられる記録再生装置の一例を示す斜視図である。

【符号の説明】

1 第1の光ディスク、 2 基板、 4 テーブル載置部、 5 ハブ、 21 信号記録層、 41 第2の光ディスク、 42 基板、 51 第1のディスクカートリッジ、 55 記録用開口部、 56 記録再生\*

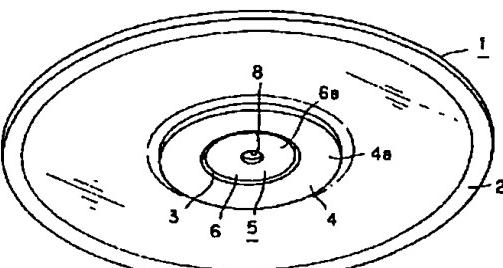
\*用開口部、57 中央開口部、58 シャッタ部材、71 第2のディスクカートリッジ、75 記録用開口部、76 記録再生用開口部、77 中央開口部、78 シャッタ部材 91 アダプタ、111 再生専用型の第3の光ディスク、112 基板、116 シート体、117 光透過層。

【図1】



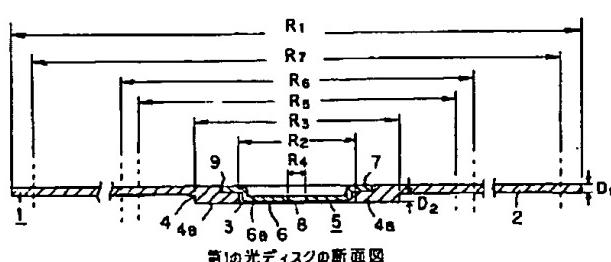
第1の光ディスクの上面側

【図2】



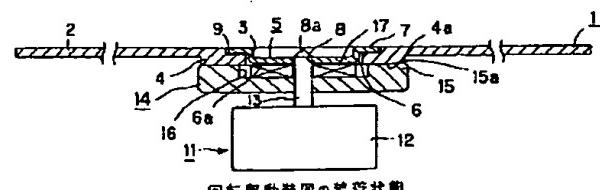
第1の光ディスクの下面側

【図3】

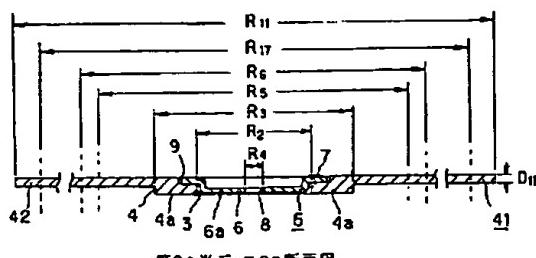


第1の光ディスクの断面図

【図4】

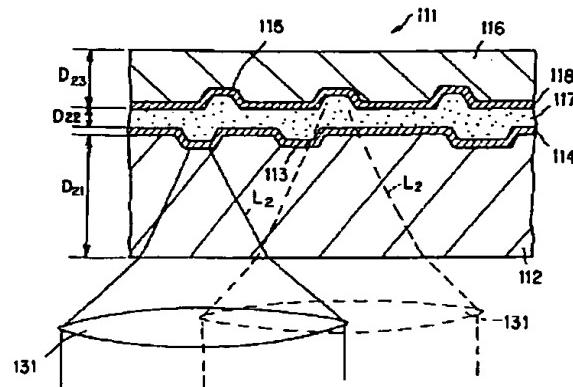


【図7】



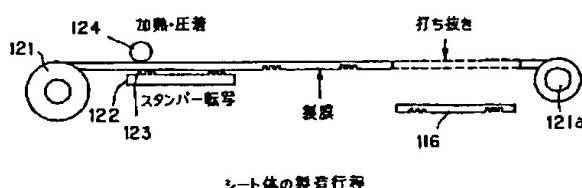
第2の光ディスクの断面図

【図8】



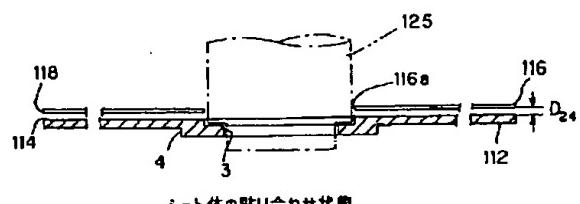
2層の再生専用の光ディスクの断面図

【図9】



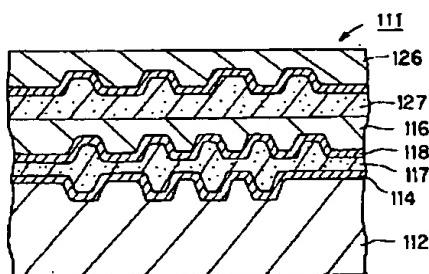
シート体の製造行程

【図10】



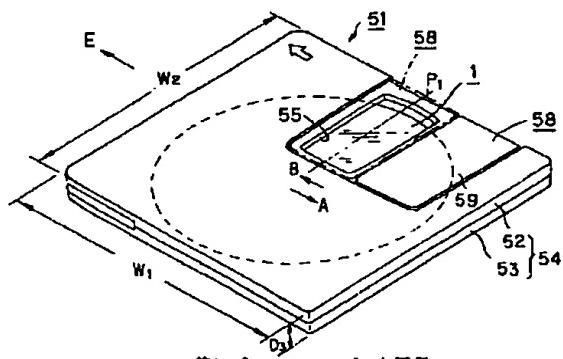
シート体の貼り合わせ状態

【図11】



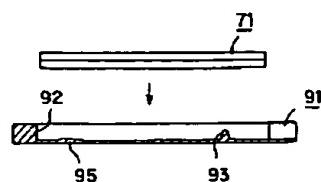
3層の再生専用の光ディスク

【図12】



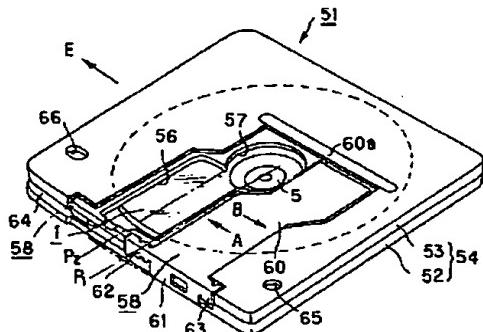
第1のディスクカートリッジの上面側

【図17】



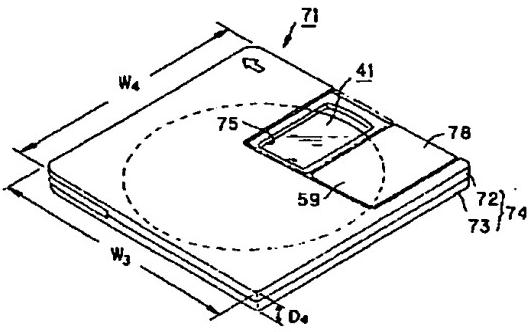
第2のディスクカートリッジのアダプタへの装着する状態

〔図13〕



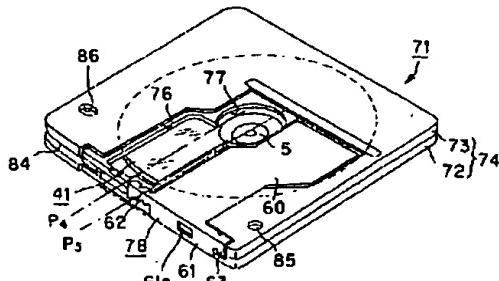
#### 第10のディスクカートリッジの下画側

[図14]



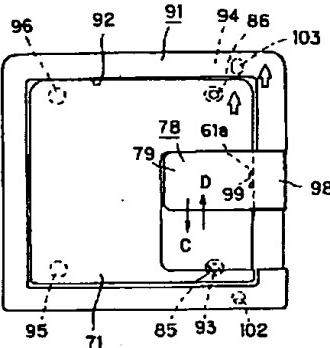
#### 第2のディスクカートリッジの上面側

[图 15]

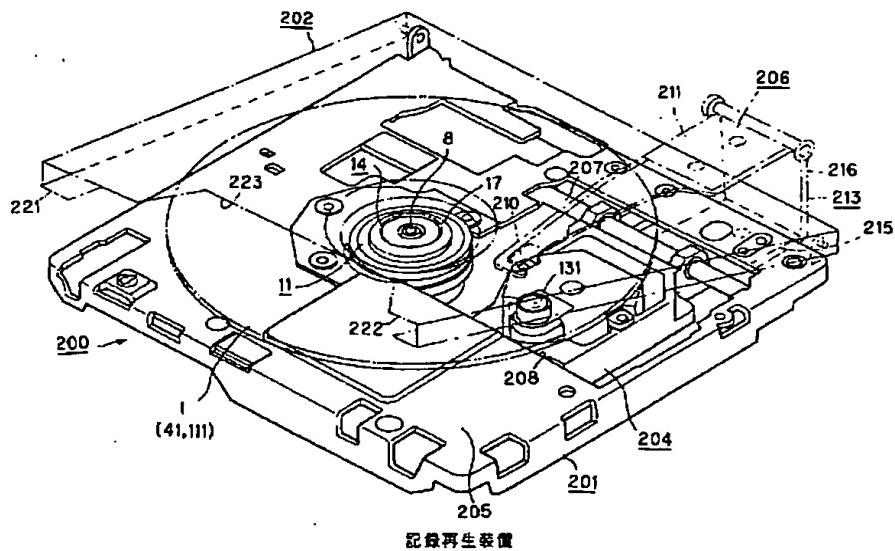


#### 第2のディスクカートリッジの下面側

(図18)



【图19】



## フロントページの続き

(51) Int. Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	マークコード(参考)
G 1 1 B	7/26	5 2 1	5 2 1
	23/03	6 0 6	6 0 6 Z
(72) 発明者 渡辺 哲 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ 一株式会社内		(72) 発明者 前田 保旭 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ 一株式会社内	
(72) 発明者 藤家 和彦 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ 一株式会社内		(72) 発明者 師山 拓也 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ 一株式会社内	
F ターム(参考) 5D029 PA06 PA07 WA20 WB11 WC01 5D121 AA02 AA11 DD05 FF15			